

2026年5月22日

オーストラリア、増加が続いた雇用に変調の兆し(Asia Weekly)

～RBA(オーストラリア準備銀行)の政策運営に影響を与える可能性も～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(Tel: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/18(月)	(シンガポール)4月非石油輸出(前年比)	+24.5%	+10.9%	+15.3%
	(中国)4月小売売上高(前年比)	+0.2%	+2.0%	+1.7%
	4月鉱工業生産(前年比)	+4.1%	+5.9%	+5.7%
	4月固定資産投資(年初来前年比)	▲1.6%	+1.6%	+1.7%
	(タイ)1-3月実質GDP(前年比)	+2.8%	+2.2%	+2.5%
5/19(火)	(マレーシア)4月消費者物価(前年比)	+1.9%	+1.3%	+1.7%
5/20(水)	(マレーシア)4月輸出(前年比)	+36.9%	+9.0%	+8.4%
	4月輸入(前年比)	+20.0%	+2.5%	+10.4%
	(インドネシア)金融政策委員会(政策金利)	5.25%	5.00%	4.75%
5/21(木)	(ニュージーランド)4月輸出(億NZドル)	86.2	--	76.6
	4月輸入(億NZドル)	67.0	--	72.3
	(オーストラリア)4月失業率(季調済)	4.5%	4.3%	4.3%
5/22(金)	(台湾)4月失業率(季調済)	3.34%	--	3.35%

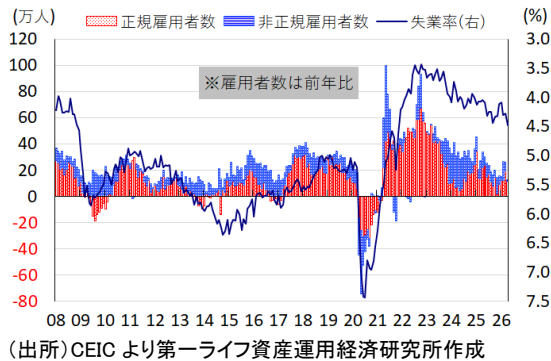
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【オーストラリア】～増加が続いた雇用に変調の兆し、RBA(中銀)の政策運営に影響を与える可能性～

21日に発表された4月の失業率(季節調整済)は4.5%となり、前月(4.3%)から0.2pt悪化した。失業者数は前月比+3.3万人と、前月(同▲0.3万人)から2ヶ月ぶりの増加に転じた。雇用形態別にみても、非正規雇用を希望する求職者数(同+2.2万人)のみならず、正規雇用を希望する求職者数(同+1.1万人)もともに増加している。中期的にも増加傾向で推移しており、失業者数が着実に増加している様子が見えてくる。一方、雇用者数は前月比▲1.9万人と、前月(同+2.3万人)から5ヶ月ぶりの減少に転じており、これまで続けてきた増加基調に一服感がみられる。雇用形態別でも、非正規雇用者数(前月比▲0.8万人)のみならず、正規雇用者数(同▲1.1万人)もともに減少している。地域別では、このところの資源価格上昇を追い風に、資源関連産業が集積する西オーストラリア州で雇用増加の流れが続いている。一方、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州など、その他の地域では軒並み雇用が減少しており、地域間で対照的な動き

がみられる。また、女性を中心に失業が拡大する動きがみられるなか、労働力人口は前月比+1.4万人と、前月（同+2.1万人）から増加基調を維持しているものの、女性に限れば減少しており、労働市場から退出する動きもうかがえる。この結果、労働参加率は66.7%と前月（66.8%）から▲0.1pt低下しており、雇用を取り巻く環境に変調の兆しが出ている様子うかがえる。

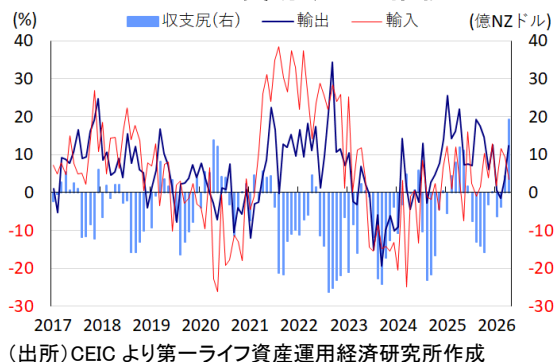
図1 AU 雇用環境の推移



[ニュージーランド]～輸出は持ち直しの動きを強める一方、輸入は頭打ちの動きを強める対照的な状況～

21日に発表された4月の輸出額は前年同月比+12.3%となり、前月（同+3.5%）から伸びが加速した。前月比でも+7.7%と前月（同+3.2%）から2ヶ月連続で増加しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど、持ち直しの動きが強まっている。財別では、機械製品や果物関連の輸出に下押し圧力がかかる動きがみられるものの、主力輸出品である乳製品や食肉関連の輸出が拡大しているほか、材木・木製品関連の輸出も堅調に推移しており、輸出全体を押し上げている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けに加え、ASEANなどアジア新興国向けが堅調な動きをみせているほか、EU向けや米国向けも旺盛な伸びを示しており、輸出をけん引している。一方、輸入額は前年同月比+3.4%となり、前月（同+9.4%）から伸びが鈍化した。前月比でも▲2.3%と前月（同▲3.7%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、頭打ち感を強めている。財別では、原油高を反映して原油や石油製品関連の輸入額が大幅に押し上げられる一方、機械製品関連や縫製品関連など幅広い分野で輸入に下押し圧力がかかる動きがみられる。結果、貿易収支は+19.20億NZドルと、前月（+4.30億NZドル）から黒字幅が拡大している。

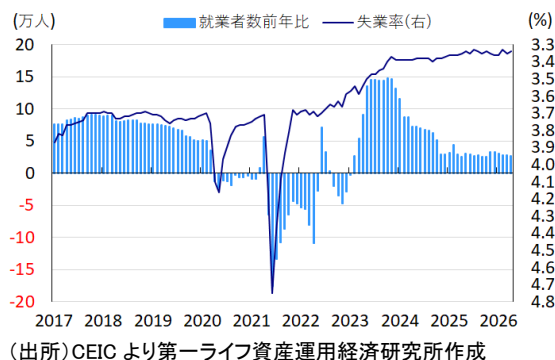
図2 NZ 貿易動向の推移



[台湾]～失業率はわずかに改善するも、雇用者数は頭打ちの動きを強めるなど雇用環境に変調の兆し～

22日に発表された4月の失業率（季節調整済）は3.34%となり、前月（3.35%）から0.01pt改善した。失業者数は前月比▲0.1万人と、前月（同+0.2万人）から2ヶ月ぶりの減少に転じているほか、中期的な基調も減少傾向で推移している。内訳をみると、新卒者では失業者数の増加がみられるものの、既卒者を中心に失業者数は減少しているほか、非自発的失業も減少する動きが確認されている。一方、雇用者数は前月比+0.0万人と、前月（同▲0.3万人）から減少の動きに一服感がみられるものの、全体としては頭打ちの状況が続いている。分野別では、鉱業部門や公益部門で底堅い動きがみられる一方、製造業や建設業、サービス業では頭打ちの動きが確認されるなど、業種間のばらつきが鮮明となっている。また、労働力人口は前月比▲0.1万人と、前月（同+0.0万人）から5ヶ月ぶりの減少に転じた。労働参加率は59.59%と前月（59.59%）から横ばいで推移しているものの、雇用環境を巡る不透明感が高まるなか、労働市場への参入意欲が後退する兆しもうかがえる。

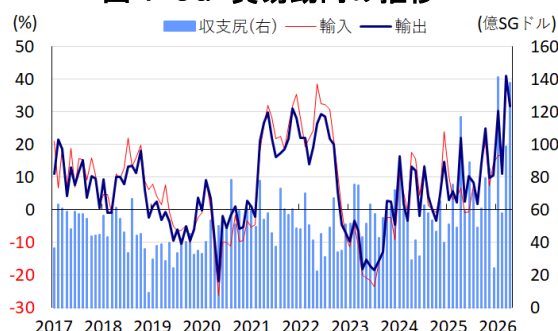
図3 TW 雇用環境の推移



[シンガポール]～中東情勢の緊迫化による原油高も追い風に、輸出入ともに拡大基調を強める展開～

18日に発表された4月の非石油輸出額は前年同月比+24.5%となり、前月（同+15.3%）から伸びが加速した。前月比でも+10.96%と前月（同+2.96%）から4ヶ月連続で増加しているほか、中期的な基調も拡大傾向で推移している。財別では、主力輸出品である半導体などの電子部品や電気機械関連の輸出が堅調な動きをみせているほか、化学製品関連の輸出も旺盛な伸びを示している。原油関連を含めた総輸出額は前年同月比+31.8%となり、前月（同+41.0%）から伸びは鈍化した。前月比では+6.1%と前月（同+20.5%）から伸び率は縮小したものの、2ヶ月連続で増加しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、底堅い動きが続いている。中東情勢の緊迫化を受けた供給懸念の高まりを背景に、原油高を反映して輸出額が押し上げられる動きがみられる。一方、輸入額は前年同月比+34.7%となり、前月（同+35.4%）から伸びはわずかに鈍化した。前月比でも+4.4%と前月（同+11.6%）から伸び率は縮小したものの、5ヶ月連続で増加しており、中期的な基調も拡大傾向で推移している。財別では、原油価格の上昇を反映して原油・石油製品関連の輸入額が押し上げられているほか、化学製品関連や機械製品関連など幅広い分野で輸入の拡大が確認されている。結果、貿易収支は+137.79億SGドルと、前月（+99.10億SGドル）から黒字幅が拡大している。

図4 SG 貿易動向の推移



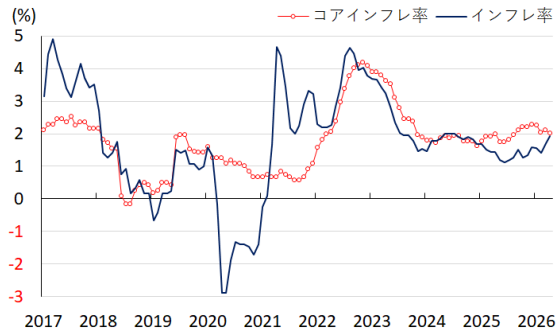
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[マレーシア]～生活必需品の物価は落ち着いた動きも、インフレ率は2024年10月以来の伸びに加速～

19日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+1.9%となり、前月（同+1.7%）から伸びが加速し、2024年10月以来の高い伸びとなった。前月比でも+0.37%と前月（同+0.29%）から上昇ペースが加速している。中東情勢の緊迫化を受けた原油高にもかかわらず、ガソリンをはじめとするエネルギーの統制価格は据え置かれているほか、食料品価格もおおむね横ばいで推移しており、生活必需品の物価は落ち着いた動きをみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.0%となり、前月（同+2.1%）からわずかに伸びが鈍化した。前月比でも+0.15%と前月（同+0.22%）から上昇ペースはやや鈍化している。エネルギー価格は据え置かれているものの、輸送コストに上昇圧力がかかる動きがみられるほか、金融市場におけるリング相場の上昇一服を受けた輸入インフレの影響も重なり、財価格にはなお上昇圧力がくすぶっている。さらに、価格転嫁の動きを反映してサービス価格にも上昇圧力がかかる動きがみられるものの、そのペースは緩やかなものにとどまっている。

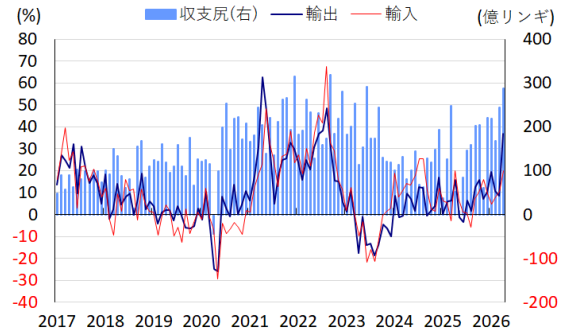
20日に発表された4月の輸出額は前年同月比+36.9%となり、前月（同+8.4%）から伸びが加速した。前月比でも+32.2%と前月（同▲2.7%）から3ヶ月ぶりの増加に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど、持ち直しの動きを強めている。財別では、世界的なAI（人工知能）関連投資の拡大を追い風に、主力輸出品である半導体など電子部品関連の輸出が堅調な動きをみせている。さらに、中東情勢の緊迫化を受けた原油高を反映し、原油や天然ガスなど鉱物資源のほか、化学肥料など化学製品関連の輸出も大きく押し上げられている。国・地域別では、中東向けに大幅な下押し圧力がかかる動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国向けのほか、ASEANなどアジア新興国向けが軒並み拡大しているほか、EU向けや米国向けも堅調に推移している。一方、輸入額は前年同月比+20.0%となり、前月（同+10.4%）から伸びが加速した。前月比でも+31.8%と前月（同▲6.5%）から2ヶ月ぶりの増加に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど、輸出同様に持ち直しの動きを強めている。財別では、原油高を反映して原油などエネルギー資源関連や化学製品関連の輸入額が大きく押し上げられたことが影響している。結果、貿易収支は+287.52億リングと、前月（+244.97億リング）から黒字幅が拡大している。

図5 MY インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

図6 MY 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以上